

農試第250-4号

平成26年5月14日

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長

(公印省略)

農作物病害虫発生予察注意報第1号の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

連絡先 福井県農業試験場 病害虫防除室

TEL 0776-54-9315

FAX 0776-54-6403

E-mail fukui_byougai@fklab.fukui.fukui.jp

平成26年農作物病害虫発生予察注意報第1号

現在、カブラヤガなどネキリムシ類の被害はみられていないが、フェロモントラップにおけるカブラヤガ成虫の捕獲数が平年の2倍以上と非常に多いこと、また今後幼虫の発生時期と野菜や花きの播種・定植時期が重なるため、被害が大きくなる恐れがある。ネキリムシ類による被害を抑え、防除を徹底するため、注意報を発表する。

病害虫名 ネキリムシ類（カブラヤガ、タマナヤガ）

1 注意報の内容

発生時期：幼虫の加害盛期は5月中旬から下旬（被害増加期 5月中旬以降）

被害程度：少発、局多発

発生量：平年、前年より多い

2 注意報発令の根拠

- （1）今年4月から5月2半旬までの農業試験場のカブラヤガ成虫のフェロモントラップ捕獲数は、平年の2倍以上となっている。とくに4月5半旬から急増し、平年を大きく超過している（図1）。
- （2）冬期間の積雪日数は44日で、平年（60日）および前年（56日）よりも少なく、越冬に好適であったと考えられる。
- （3）ネキリムシ類による被害は現在のところみられていないが、5月の気温や降水量は平年並みの予想で、発育に不適ではないと考えられる。
- （4）今後、第一世代幼虫が発生し始め、加害盛期が野菜や花きの播種・定植時期と重なるため、被害が大きくなる恐れがある。

3 防除対策

- (1) 本種は地表近くに産卵し、ふ化後の幼虫は主に雑草を食害するので、播種前や定植前に早めに圃場を耕転するとともに圃場周辺の草刈りを徹底する。
- (2) 前作が休耕地または雑草地で、耕起して定植する場合や毎年被害がでる圃場では、発生が多くなるので、殺虫剤を土壌に処理してから播種・定植する。
- (3) 本種は農作物の被害が大きくなってから発生に気づくことが多いので、播種後や定植後は圃場内をよく見て回り、早期発見に努め、被害初期に防除を行う。
- (4) 防除対策の詳細は、平成26年度福井県農作物病害虫防除指針を参照。
- (5) 発生が続く場合は、6月に播種するダイズでも被害がでる可能性があるため、チアメトキサム水和剤を塗沫処理して播種する。

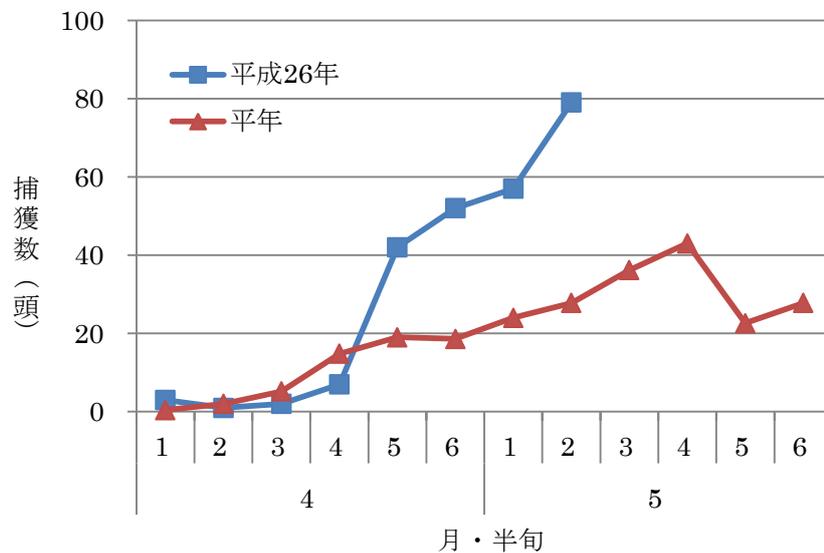


図1 フェロモントラップにおけるカブラヤガ成虫の捕獲数



図2 カブラヤガ幼虫
(終齢幼虫の体長は約40mm)



図3 カブラヤガ成虫
(体長約20mm)